

くすの木タイム学習指導案

第5学年

I 単 元 広がれ！うんまい〇〇〇（地元食材料理）

II 考 察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

地元食材料理への関心と、取組への自信をもち、
新たな課題に自ら取り組む態度

①知識・技能

地元食材料理の特徴・よさ
地元食材料理や他者と関わる技能

②思考力・判断力・表現力等

地元食材料理にかかわる課題を見
いだし解決する力

(2) 学習内容

・学習対象：地元食材料理

・学習事項：地元食材料理の特徴・よさ

分類・比較・関連付け等の考えるための技法 折り合いをつけ合意形成を図る技能

他者と関わることと、物事を多様な角度から俯瞰して見ることの大切さ

地元食材料理を通して見た自分と前橋市とのつながり

(3) 本単元の学習とその価値

本単元は、子どもたちが、地元食材調査や地元食材料理のレシピ開発をして捉えた地元食材料理の特徴・よさを発信する学習である。その価値は以下のとおりである。

前橋市は、赤城山や利根川からの豊かな水や水はけのよい火山灰土、長い日照時間、標高差等の環境を活かした畑作が盛んである。また、昭和期の生糸の貿易から西洋料理が広まったのを機に養豚が盛んになり、全国屈指の養豚農家数を誇っている。そのため、種類が豊富で長期間旬を楽しめる野菜や、様々なブランド豚が新鮮かつ手軽に手に入る。そして、恵まれた地元食材を活かしたTONTON汁等の料理が多く紹介されている。一方で、進んで地元食材を選び、「地産地消」を実践する人は半数に満たない。これは、消費者が栄養価の高い新鮮で安心なものを食べられるよさや、生産者と地域が活性化するよさを損なうという地域の問題につながっている。

子どもたちは、これまでの生活や学習で地域への愛着をもち始めたり、地域課題へ取り組んで地域の役に立つことの充実感を得たりしてきている。また、家庭科の学習や給食を通して、食や地元食材料理への関心をもち始めている。このような子どもたちにとって、地元食材料理を再考し、「地産地消」を推進する活動で直面する課題は、地域の問題に取り組むことと自分たちの関心のあることの両者を満たす必要感のある課題となる。

地元食材料理を探究することは、前橋市の歴史や農業、気候、人々の暮らし等の多様な角度から地元食材を見ることになる。また、地元食材調査や調理・試食を繰り返すことになり、栄養士や食生活改善推進員、料理研究者、友達と協働して取り組む経験を重ねることができる。

さらに、地元食材料理のレシピや発信方法を検討する中で、食材の組合せの工夫、試食会の実施やレシピの配布等について、栄養面や調理面、地元食材料理と前橋市のつながりの面等から繰り返し分析的に見ることになる。そして、解決が難しいこの問題の解決に向けて他者と協働して取り組み、その成果を共有することは、学級や地域の一員としての自信をもつことになる。

これらの探究を通して子どもたちは、地元食材料理が地域の様々な要素と深い関係にあることや、地元食材を進んで消費することが地域のためにも自分たちの食の安心・安全にもつながることの概念的な理解をし、地元食材料理や地元食材が育まれた前橋市への愛着を高めていく。

(4) 今後の学習

食から見た前橋市への愛着を高めてきたこの学習は、6年「ふるさと再発見プロジェクト」において、子どもたちが商店街の店や施設の手伝いをしながら商店街の人と繰り返し関わり、商店街の人のよさを発信するといった、商店街の人の立場から見た前橋市への愛着を高める学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、4年「めざせ！心の親ぜん大使」において、目の不自由な方との関わりや目が不自由な状態の疑似体験をして捉えたそれらの特徴・よさを発信する学習を行ってきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

① 外部講師との情報交換や目の不自由な状態の疑似体験をして目の不自由な方やその生活を支えるものの特徴・よさを得られるようになってきている。このような子どもたちが、外部講師や体験だけでなく地域のニーズ調査からも地元食材料理の特徴・よさを得られるように、調理・試食等での専門家との情報交換に加えて地域の人々への地元食材調査を設定する。

目の不自由な方やその生活を支えるものの発信内容や方法について分類・比較をするピラミッドチャートやマトリクスを使えるようになってきている。このような子どもたちが、これらの思考ツールに加えて、地元食材料理のレシピの作り方や発信方法等について分類・比較・関連付けをするメリット・デメリットを使えるように、それらを繰り返し用いる機会を設定する。

② 目の不自由な方やその生活を支えるものにかかわる課題に対する根拠のある考えを導いてきている。このような子どもたちが、地元食材料理にかかわる課題に対する多様な角度から見た複数の根拠のある考えを導けるように、「対象を選択する視点」や「課題を解決した状態の具体図」と、情報や考え方等を言語化・可視化して整理する振り返りシートの用意をする。

③ 目の不自由な方との関わりや目の不自由な状態の疑似体験を通して、目の不自由な方やその生活を支えるものにかかわる課題の解決への自信をもてるようになってきている。このような子どもたちが、地元食材料理にかかわる課題の解決への自信をもてるように、活動ごとに自分が与えたよい影響について友達から評価をもらう振り返りシートを読み合う機会を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- ねらい 対象の候補とした地元食材料理のメリットとデメリットについて話し合うことを通して、地元食材料理の特徴・よさを多様な角度から見直し把握する。
- 準備 振り返りシート メリット・デメリットの思考ツール 焼まんじゅうとTONTON汁のメリットやデメリットを書いた短冊 対象を選択する視点の図
- 展開

学習活動と子どもの意識

指導上の留意点

- 1 本時のめあてをつかむ。
- ・ぼくは、「有名でPRしやすい『焼まんじゅう』がいい」と思ったけれど、友達の書いた「有名でなくてPRのしがいのある『TONTON汁』がいい」を読むと、どちらがいいか悩むな。
 - ・友達が前回の話合いでのぼくの発言に「感心した」と書いてくれて嬉しいな。今日も頑張ろう。
 - ・学級目標に向けて取り組むべきは、『焼まんじゅう』と『TONTON汁』のどちらかに決めるために、メリットとデメリットを話し合うことだな。
- 2 対象の候補とした地元食材料理のメリットとデメリットを学級全体で話し合う。

	焼まんじゅう	TONTON汁
メリ ツ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・TONTON汁より有名で広めやすい ・食材費が安く配布しやすい ・小麦と味噌をPRできる ・TONTON汁より専門店が多い ・一年中食べられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・T-1がランアプリに参加できる ・豚肉をPRできる ・入れる具材が多く、たぐさんの地元食材を使える ・具材の選択肢が多くアレンジしやすい
デ メ リ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・レシピの選択肢が少なくアレンジしにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・味付けが決まっている ・有名でない→メリット(助け合える+協力しないとできない)

- ・ぼくは、『焼まんじゅう』のメリットに「TONTON汁よりも有名で広めやすい」があると思うよ。だって、前橋のPRにつながりやすくて【人や地域の役に立つ】にふさわしいと思うよ。
- ・友達が言うように、『TONTON汁』のデメリット「有名でない」は、見方を変えるとメリットかもしれないな。『TONTON汁』を広めるのは簡単ではなさそうだけれど、自分たちの頑張りが必要で、より【助け合えるもの】で【協力しないとできない難しいもの】と言えそうだな。
- ・観光地で食事を選ぶときの傾向調査の結果では、地元食材を決め手にする人が多かったな。『TONTON汁』なら地元食材がたくさん使えるな。
- ・『TONTON汁』が取り組むのにふさわしそうだな。

- 3 本時の学習のまとめをする。
- ・今後の学習に向けて自分たちの思いを分かち合えてよかったな。これから『TONTON汁』を広め、多くの人に喜ばれる名物にしたいな。

- 対象の候補である焼まんじゅうとTONTON汁のメリットとデメリットについての友達との認識のずれと課題の解決への自信を感じられるように、近くの席の子ども同士で前時の振り返りシートを読み合うよう促す。
- メリットやデメリットを話し合って対象を決めるという本時の見通しをもてるように、対象を選択する視点の図(次項参照)を提示し、本時に取り組むべきことを問いかける。
- メリットやデメリットを共有できるように、メリット・デメリットの思考ツール上へ、前時の振り返りシートに書かれていたメリットやデメリットを短冊で提示する。
- メリットやデメリットの確かさを共有できるように、情報の根拠の発言を促す。
- メリットやデメリットを比較できるように、対象を選択する視点に照らしてメリットやデメリットを書いた短冊を操作する。
- メリットやデメリットの序列化ができるように、観光地で食事を選ぶ際の傾向調査の結果を読み返すよう促す。
- 対象の選択の進捗状況を把握し話合いの成果を実感できるように、振り返りシートを用意し、対象を選択する視点の図に照らして本時の取組を記入するよう促す。

評価項目

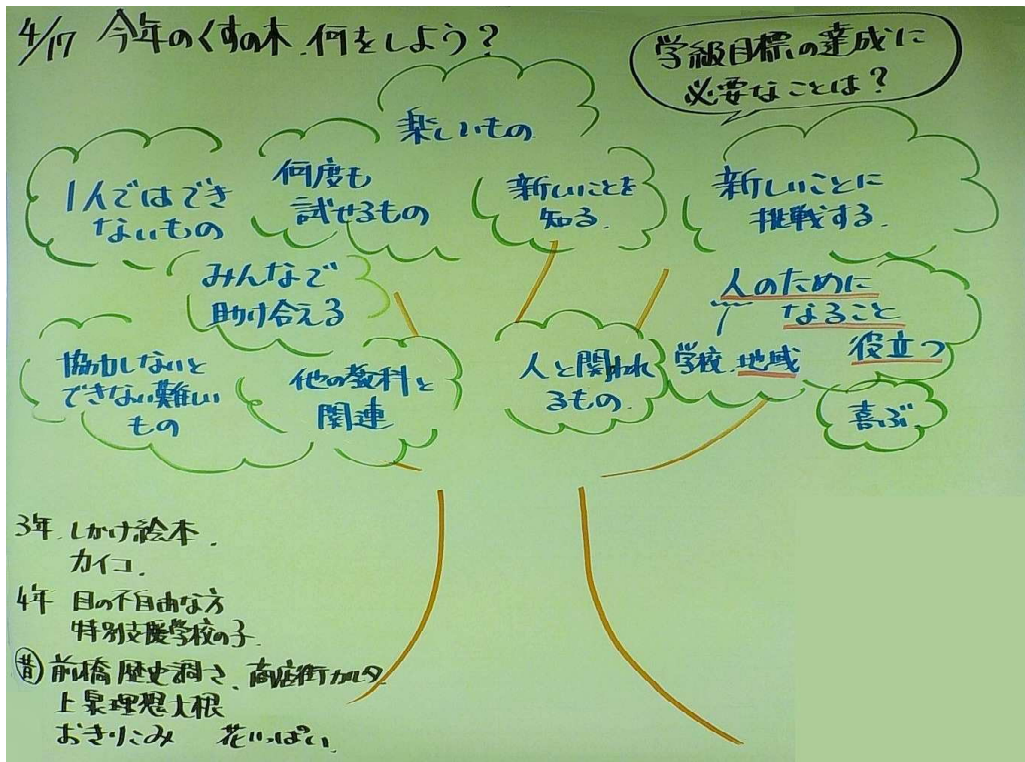
対象を選択する視点に照らして地元食材料理を決めた根拠を複数記述したり発言したりしている。

<学習プリント・発言②>

- 追究の方向性を明確にできるように、今後の活動と目的を学習のめあてとして板書する。
- 今後の追究への意欲を高められるように、今後の活動やその思いの発言を称賛する。

【資料】

本時使用する「対象を選択する視点の図」



指導と評価の計画（全70時間）

目標	前橋市の地元食材調査や地元食材料理の調理・試食、レシピ開発、それらの発信を通して、前橋市の歴史や農業、気候、人々の暮らしが地域食材料理と深い関係にあることや、進んで地産地消を推進することが地域のためにも自分の食の安心・安全にもつながることといった概念的な理解をし、地元食材や地元食材料理が生まれた前橋市への愛着を高める。			
評価規準	<p>(① 知識・技能) 地元食材の種類や旬、前橋市とのつながり、地元食材料理のレシピや市民のもつ地元食材料理への印象といった地元食材料理の特徴・よさを理解している。 アンケート結果や地元食材料理の特徴・よさを分類・比較・関連付けする思考ツールを使ったり、自他の考えの折り合いを付け合意形成を図ったりしている。</p> <p>(② 思考力・判断力・表現力等) 地元食材料理についての課題を設定し、地元食材について調べ、調べたことや他者の発言といった複数の情報を根拠として解決方法を導き実践している。</p> <p>(③ 主体的に学習に取り組む態度) 地元食材料理への関心を高め、取組への思いや自信をもち、前橋市への親しみを感している。</p>			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
出会う	1	○学級目標とこれまでの対象や先輩たちが関わってきた対象を基に、対象を選択する視点について話し合う。	○これまでの探究の経験から探究のよさを想起できるように、過年度のくすの木タイムでの具体的な活動とその時の成果が分かる振り返りシートや写真を提示する。	◇対象を選択する視点として、人や地域の役に立てることや試行できることといった、学級目標やこれまでの探究の経験を基とした思いを記述したり発言したりしている。<学習プリント・発言③>
	6	○対象の候補を挙げ、対象を選択する方法を話し合ったり、それらについてwebサイトや図書資料、栄養士へのインタビュー、観光地についてのニーズ調査等で情報収集をしたりする。	○TONTON汁やおきりこみ、焼まんじゅう等の前橋市の名物から対象を決め、地域活性に一役買いたいという思いをもてるように、都道府県庁所在地別魅力度ランキングの上位の都市と最下位の前橋市の名物料理を比較するベン図の用意をする。	◇対象にしたいものを自分なりに決め、その理由として人や地域の役に立てることや試行できることといった、対象を選択する視点を記述している。<学習プリント②>
	6 家庭2	<p>○試しの調理・試食や再度調査をし、対象にしたいものとその理由を話し合う。(本時6/6)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習のめあて：決めた地元食材料理を広め、多くの人に喜ばれる名物にしよう。</p>	○対象の候補のTONTON汁やおきりこみ、焼まんじゅうの対象としての特徴・よさを比較できるように、対象を選択する視点と、メリット・デメリットの思考ツールの用意をする。	◇対象を選択する視点に照らして対象を決めた根拠を複数記述したり発言したりしている。<学習プリント・発言②>
さぐる・まとめる	2	○決めた地元食材料理についての気付きや疑問を話し合ったり栄養士の話の聞いたりして、課題をつかむ。 課題：給食で喜ばれる地元食材料理とは、どのようなものだろう。	○決めた地元食材料理の現状を改善する必要感をもてるように、今までに得た、決めた地元食材料理の特徴・よさを振り返る「意外だったこと」の視点を提示する。	◇今までに得た、決めた地元食材料理の特徴・よさを基に、これから取り組みたいことを記述したり発言したりしている。<学習プリント・発言②>
	2	○決めた地元食材料理のレシピの開発をする計画を立てる。	○課題を解決した状態を具体的に想定できるように、給食で喜ばれる地元食材料理の特徴・よさを整理する「評価する人」と「評価してもらう方法」の視点を提示する。	◇決めた地元食材料理の特徴・よさを記述したり発言したりしている。<学習プリント・発言①>
	3	○決めた地元食材料理のレシピ開発に向けて、作り方や地元食材の組合せについて複数の店や家庭にアンケートをし、結果を集計する。	○決めた地元食材料理のレシピの多様性に気付けるように、「食材の組合せ」の観点を基にアンケート結果を整理する学習プリントの用意をする。	◇決めた地元食材料理の店や家庭による食材の組合せの特徴や、家庭で人気の食材の組合せを記述している。<学習プリント①>
	4	○班ごとにテーマを決め、地元食材について調べ、レシピを作る。	○根拠をもって食材の組合せを決められるように、課題を解決した状態の具体図とマトリクスの思考ツールの用意をする。	◇選んだ食材の組合せの根拠を記述したり発言したりしている。<学習プリント・発言①>
	4	○調理・試食をし、感想を伝え合う。	○開発した地元食材料理について「食材」や「調理の手軽さ」等の視点から多面的に評価できるように、課題を解決した状態の具体図と、PMNのシートの用意をする。	◇開発した地元食材料理のよさと問題点について「食材」や「調理の手軽さ」等の複数の視点から記述している。<学習プリント②>
	4	○栄養士や料理研究家にインタビューして、班で開発した地元食材料理のレシピを見直す。	○今までに得た、開発した地元食材料理の特徴・よさを基に、レシピの改善策を導けるように、課題を解決した状態の具体図と、前時に記入したPMNのシートの用意をする。	◇開発した地元食材料理の改善策の根拠を複数記述したり発言したりしている。<学習プリント・発言②>

	2	○調理・試食をし、感想を伝え合う。	○開発した地元食材料理のレシピについて前回見直した視点以外の視点からも多面的に評価できるように、課題を解決した状態の具体図と、PMNのシートの用意をする。	◇開発した地元食材料理のレシピのよさと問題点について前回見直した視点以外の視点から記述している。 ＜学習プリント②＞
	2 国語9	○開発した地元食材料理のレシピを修正し、給食への提案資料を作って提案する。	○給食への提案資料に載せる、開発した地元食材料理の特徴・よさを選べるように、課題を解決した状態の具体図と、マトリクスの用意をする。	◇テーマに合わせてマトリクスを作り、提案内容の根拠を記述したり発言したりしている。 ＜学習プリント・発言①＞
	3	○校内児童に給食に出した開発した地元食材料理の感想のアンケートをし、今までの活動の成果を話し合う。	○校内児童の感想を基に課題の解決状況を評価できるように、課題を解決した状態の具体図とアンケート結果の用意をする。	◇開発した地元食材料理の感想を基に、今までの取組の成果を記述している。 ＜学習プリント③＞
課外	3	○地元食材料理の認知度調査をし、結果から気付きや疑問を話し合い、課題をつかむ。 課題：開発した地元食材料理を多くの人に食べてもらうには、どう発信したらよいのだろう。	○開発した地元食材料理を発信する目的と相手を明確にできるように、地元食材料理を食べたり作ったりした経験や印象についての調査結果を年齢別に整理するシートの用意をする。	◇年齢に関わらず地元食材料理を食べたり作ったりした人が少ないことや間違っていて誤認されていることを根拠に発信の目的と相手について発言したり記述したりしている。＜学習プリント・発言②＞
	1	○開発した地元食材料理を発信する計画を立てる。	○課題を解決した状態を具体的に想定できるように、開発した地元食材料理を作りたくなる発信内容について整理する「評価する人」と「評価してもらう方法」の視点を提示する。	◇開発した地元食材料理の特徴・よさを基に、発信内容を記述したり発言したりしている。 ＜学習プリント・発言①＞
	2	○開発した地元食材料理の発信方法の案を複数挙げ、それぞれのメリットとデメリットや実現に必要なことを調べる。	○発信方法の案について調べたことを整理できるように、課題を解決した状態の具体図と、メリット・デメリットの思考ツールを示した学習プリントの用意をする。	◇調べたことを基に、発信方法の案のメリットとデメリットを記述している。 ＜学習プリント②＞
	2	○開発した地元食材料理の発信方法について話し合う。	○それぞれの方法のメリットやデメリットを比較できるように、課題を解決した状態の具体図に照らして、よさや問題点を書いて操作できる短冊の用意をする。	◇開発した地元食材料理を食べってもらう方法の根拠を、複数のよさや問題点を用いて記述したり発言したりしている。 ＜学習プリント・発言②＞
	6	○決めた発信方法の準備をしたり、発信に協力いただく店の方等と打合せをしたりする。	○目的や相手を意識して、開発した地元食材料理の特徴・よさを発信物にまとめられるように、課題を解決した状態の具体図と、企業や自治体の発信物の用意をする。	◇開発した地元食材料理の特徴・よさについて目的や相手に合わせた表し方で記述している。 ＜発信物①＞
	3	○試しの発信をし、感想を伝え合う。	○作った発信物について「食べたくない」や「作りたくない」の視点から多面的に評価できるように、課題を解決した状態の具体図と、PMNのシートの用意をする。	◇作った発信物のよさと問題点について「食べたくない」や「作りたくない」の複数の視点から記述している。 ＜学習プリント②＞
	5	○専門家にインタビューしたり企業や自治体の発信の工夫を見返したりして、発信物の改善をする。	○開発した地元食材料理の特徴・よさを基に、発信物の内容やまとめ方の改善策を導けるように、課題を解決した状態の具体図と、前時に記入したPMNのシートの用意をする。	◇作った発信物の改善策の根拠を複数記述したり発言したりしている。 ＜学習プリント・発言②＞
	6 課外	○開発した地元食材料理を協力店とともに発信をし、アンケート等の集計をし、開発した地元食材料理の発信の成果を話し合う。	○アンケート結果を基に課題の解決状況を評価できるように、課題を解決した状態の具体図とアンケート結果の用意をする。	◇開発した地元食材料理の感想を基に、今までの取組の成果を記述している。 ＜学習プリント③＞
広げる	3	○1年間の取組の成果を基に、実社会へ貢献することと探究的に学ぶことの価値について話し合う。	○地元食材に対する概念的な理解や前橋市への愛着の高まりを実感できるように、単元始めの地元食材や前橋市への印象を記述した学習プリントと掲示物の用意をする。	◇地元食材に対する概念的な理解や高まった前橋市への思いを記述している。 ＜学習プリント③＞